

February

第13期

「京都教師塾」



平成31年2月9日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

仲間のレポートに学ぶ

1月26日に最後の専門講座を行いました。全部で4講座を設定しましたが、希望校種に限らず、他校種・職種に関心をもって前向きに受講する姿が見られました。教育学講座は今日を含めてあと3回です。



「高等学校における教師の実践」 講師：学校指導課 宮越 敬記 指導主事



講座を通して、改めてキャリア教育の重要性を再認識した。大学進学がゴールではなく、将来社会に出た時に何をしたいかということを見据えて勉強をするという意識をもたせる指導を行っていくべきだ。勉強だけが出来れば良いのではなく、身の回りの整理や出された課題にしっかりと取り組むというように、社会に出ても自分の行動に責任をもてるような力を身に付けさせることが大切だと思う。また、目的意識を持つことで、自分が何をしたいのか、どうすべきなのかを具体的に考えて実践することができるので、自分もきちんとしていきたい。

高校生に身に付けてほしい力として、責任感や自立心を持って行動できるような力が大切だと考えたが、教員自身が持っていなければ生徒に指導することはできないので、普段から気を付けて行動していこうと思う。また、教育をする際に、学問だけではなく、社会参加を念頭に置いて指導することが大切だと分かった。成人年齢の引き下げが起これば、学生でも一社会人として見られるので、学生だからと区切らず、自分たちも社会の一員であるという自覚を持たせられるようにしていきたい。



「もとめられる養護教諭像」 講師：体育健康教育室 長光 裕子 副主任指導主事



初めに講義から学んだことは、1つめは連携が大切だと学びました。養護教諭の先生と教師が普段から連携することで、大変なことが起こっても対応できるのではないかと思います。2つめは、プレゼン能力です。担任の先生や管理職の先生に大切な事を話すことがあると思うので、その時にいかに分かりやすく簡単に、だけでも重要なことが分かるように話すプレゼン能力が必要なのだと学びました。

次に分散会で学んだことは、1つめはコミュニケーション能力です。他の先生方に大切な事について話す時や児童・生徒の普段の様子について話す時、児童・生徒の話を聞いたり、話したりする時など、どんな時にでも必要だと学びました。2つめは適切な判断と対応についてです。適切な判断と対応をすることで、先生方からの信頼はもちろん、保護者の方からの信頼が得られるのだと学びました。

今回の講義・分散会に参加して、養護教諭についてまだまだ知らないことだらけなのだ実感しました。それと救急の対応をする時には、はじめは担任の先生が見つかることが多いので、担任の先生になった時にちゃんと対応できるように、救急の対応について、また普段の様子をよく観察して、変化に気付けるように注意や勉強をしたいと思います。



「総合支援学校における教師の実践」
講師：総合育成支援課
北福 浩章 指導主事



講義を聞いて、京都市が総合育成支援教育に力を入れていることを知ることができた。インクルーシブ教育が進んでいる中で、総合育成支援教育の中でも「地域の子は地域で育てる」といったように様々な障がいのある子どもたちが一緒に学んでいるんだと新しく学ぶことができた。また、終わりに話されていた「全体への配慮」と「個別の支援」について、私自身も大学の講義の中の課題等、個別の支援を考える機会が多い。そのため「支援」となると、どうしても個別で考えてしまうが、全体の配慮を考えて、それでもまだ必要な支援を考えるという視点が必要だということ学んだ。

グループではインクルーシブ教育について話し合った。私は、その子の「できる」を伸ばすためには、総合支援学校や育成学級は必要だと思う。実際、総合支援学校で医療的ケアが必要な重度の障がいのある子と関わったことがあるが、その子どもたちが十分に学べる環境を作るには総合支援学校は必要だと考える。

障がいのある子どもたちにとって、より良い教育をするには、まだまだ工夫や教師自身成長していかなければならないことが多いと思った。まず、専門性を高め、困りのある児童への理解を深めていく必要があると感じた。

そして、児童だけでなく保護者とも継続的に教育相談を重ねながら、子どもの「できる」を伸ばすことができるような支援を考えていきたい。



「もとめられる栄養教諭像」
講師：体育健康教育室
小山 ひとみ 副主任指導主事



全体会では3点学びました。1つ目に実践できるようにサポートするという事です。授業の中で原因を見つけ、それを解決する方法を探る際、具体的かつ実現可能な策を子どもが見つけれられるように、サポートして授業づくりをしなければいけないのだと感じました。2つ目にそれぞれのクラスに合ったサポートをしていく必要があるということです。栄養教諭は学校全体のクラスと関わりを持つため、各クラスの困りや問題について知っていく必要があります。その上で栄養教諭として食に関する指導をする際、各担任の先生と連携を取っていく必要性を改めて強く感じています。3つ目は学校の中の一教諭として子どもを育てていくという意識を持つことです。「自分は子どもから見たら先生だ」という意識の中で日々取り組む必要があると思いました。

分散会では、「栄養教諭として」と「教諭として」について話しました。栄養教諭としては、どのようにして自分の知識をかみくだき、分かりやすいように伝えられるかというのが大きな課題だと感じました。また、教諭としての考え方や子どもへの接し方など、担任を持たれている先生と比べると知識が少なく、経験がないことも課題だと思います。今、学生ボランティアという機会をいただいているので、様々なことを吸収して自分のものにしていけたらと思いました。

FW「先輩の授業に学ぼう」

鳴滝総合支援学校 (1/22)

大塚小学校 (2/1)

就労を目指した授業や学校の取組について、教えていただきました。

対話を大切にした社会科の授業を見せていただきました。



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
障がいのある市民の参画を促進しよう!

